

地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ 2016 in 石巻を開催・研究発表しました (2016/8/5-6)

テーマ：東日本大震災，災害科学
場所：宮城県石巻市

8月5日(金)～6日(土)の2日間，地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ 2016 in 石巻」が開催されました(主催：地域安全学会，共催：東北大学災害科学国際研究所，後援：石巻市)。同学会では，東日本大震災を契機とした今後の復興と防災について議論を深めていくことを目的として，東日本大震災発生以降，通常の研究発表大会とは別に同ワークショップを開催しています。2012年は福島県いわき市，2013年は岩手県大船渡市，2014年は岩手県宮古市，2015年は宮城県気仙沼市，5回目となる今回は宮城県石巻市での開催となり，研究発表会・現地見学会からなるワークショップが開催されました。

1日目は，石巻市総務部危機対策課・事業推進管・木村伸様から東日本大震災での被害・対応，その後の防災対策について，石巻市復興政策部復興政策課・課長・岡浩様から震災からの復興の歩みについて基調講演をいただくとともに，24件の研究発表が行われました。当研究所からは，共著を含む11件の発表が行われました(下記参照)。研究発表会の後は，指定討論者による総括が行われ，研究のトレンドや今後の方向性について参加者全体で理解を深めました。研究発表後，地域の復興を推進する目的で設置された，チャレンジショップエリアである「橋通りCOMMON」にて，参加者らの交流会が開催されました：

浅利満理子，佐藤翔輔ら：宮城県沿岸部における東日本大震災後の震災学習プログラム開催状況と今後の展望
中川政治，佐藤翔輔ら：石巻市における屋外伝承拠点の来訪者集計方法の確立と屋内外拠点への来訪者数の傾向把握

佐藤翔輔，今村文彦ら：災害伝承活動に関する先進事例からの学びと石巻地方における課題
－「震災学習協働事業体制づくり」コンファレンスの取組み－

桜井愛子，佐藤健ら：災害体験から学ぶ防災教育－石巻市における「復興・防災マップづくりプログラム」広域化に向けて

村尾修ら：東日本大震災における社会基盤施設の建設状況からみた復興過程の比較

松川杏寧，佐藤翔輔：生活復興感から見る仮住まいのあり方について－名取市現況調査2年分のデータから－

北村美和子，村尾修：東日本大震災後「あまちゃん」が被災地域活性化，被災地域住民の意識満足に与えた影響

山崎麻里子，佐藤翔輔ら：被災をきっかけにして新たに生まれた外部交流拠点に関する第一次調査－旧山古志村木籠集落の事例－

諫川輝之，村尾修ら：東日本大震災体験後における津波避難に関する住民意識－千葉県御宿町における震災前後のアンケート調査から－

佐藤健：東日本大震災における「何でもやります隊」の活動とその意義

中谷典正，村尾修：大規模災害に備えるための中小企業の事業継続対策上の課題－東日本大震災における宮城県内企業の事例－

※著者名は，筆頭者と研究所構成教員のみ記載。下線は所員。

2日目の現地見学会では，国内外からの参加者32名を対象に，①コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会・幹事長・尾形和昭様から，石巻中心市街地のまちづくりについての講話，②みらいサポート石巻によるARアプリを利用した「防災まちあるき」，③前記協議会の防災プロジェクトリーダーである，うなぎ割烹八幡家・女将の阿部紀代子様から，同割烹にて昼食をいただきつつ，被災から再開への歩み，地域の防災の取組みに関する講話を行いました。

同ワークショップの企画は，東日本大震災特別委員会(委員長：村尾修教授(地域・都市再生研究部門)，本会幹事：佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)，委員：杉安和也助教(リーディング大学院)，ほか)が行い，その運営に際しては，石巻市総務部危機対策課，会場となった石巻中央公民館，運営補助をいただいた公益社団法人みらいサポート石巻の皆様にご多大なご支援，ご助力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。



基調講演の様子



実行委員長の冒頭挨拶（村尾修教授）



口頭発表の様子（佐藤健教授）



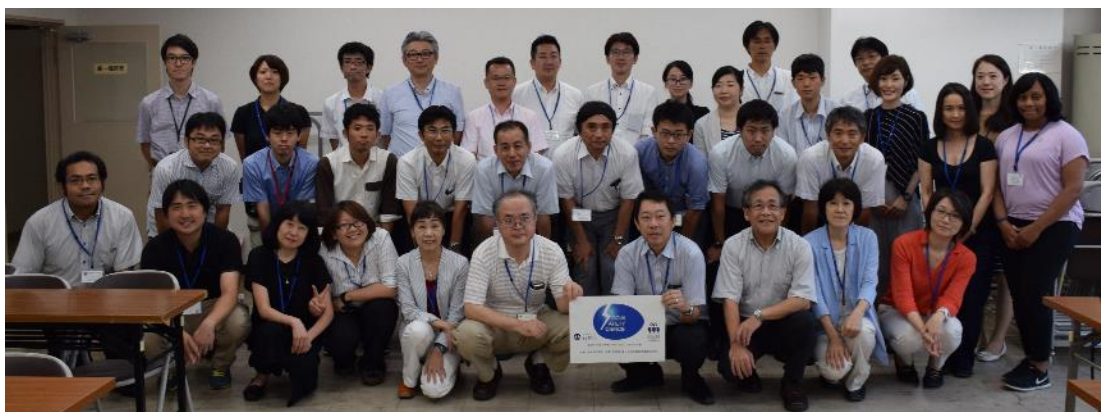
口頭発表の様子（桜井愛子准教授）



「防災まちあるき」の様子



講話の様子



ワークショップの参加者（1日目，研究発表終了後）